

S/F REAL 4

Q&A

【胴縁】

あい ホールディングスグループ 

株式会社 ドットウェル ビー・エム・エス

DATA LOGIC

CADデータを読み込んで胴縁を配置したい！① 図面取込でできます。

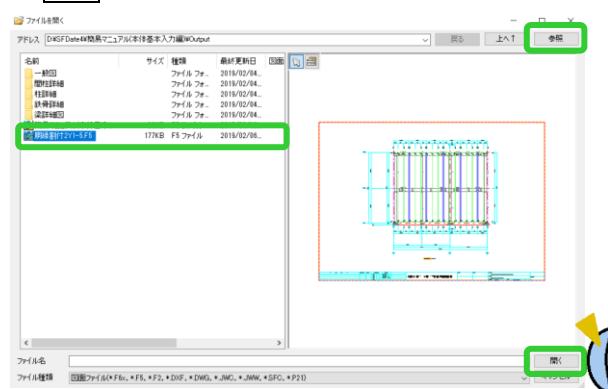
DXF ファイル形式等で作図した胴縁割付図から部材データまたは補助線として取り込むことができます。

【胴縁】 - 【図面取込】をクリックします。



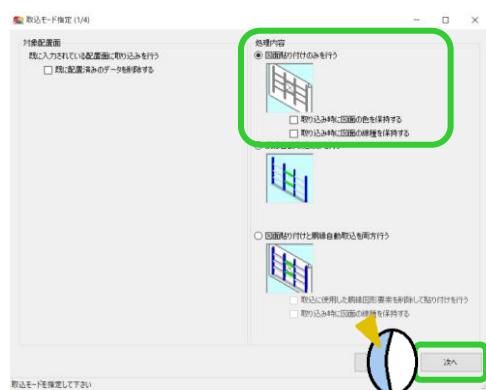
取り込みたい図面を選択します。参照をクリックして取り込みたい図面の保存先を開きます。

取り込みたい胴縁割付図を選択し、開くをクリックします。



取込モードを指定します。

今回は補助線として取り込むため、【図面貼り付けのみを行う】を選択し次へをクリックします。



胴縁自動取込のみ行う

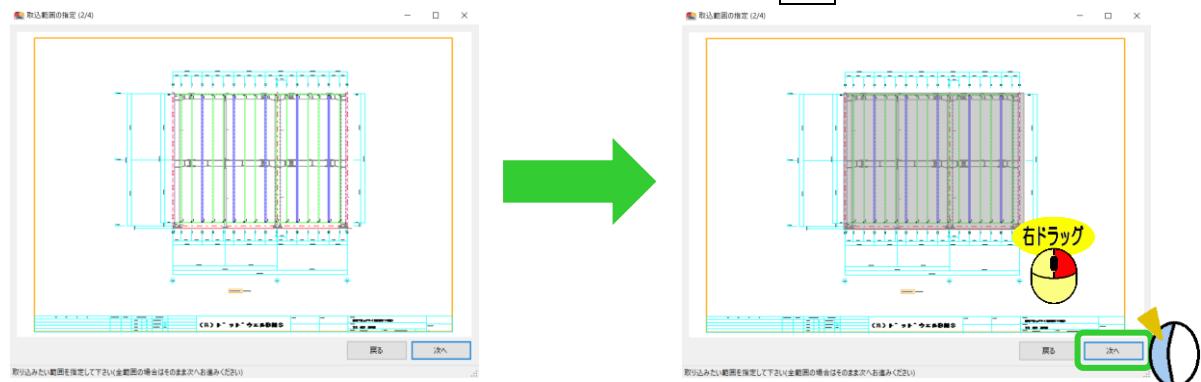
取込図面より認識できた胴縁部材のみ胴縁配置面に取り込みます。



図面貼り付けと胴縁自動取込を両方行う

取り込み元図面より胴縁部材の認識を行い、認識できた胴縁部材と取り込み元図面の線分の両方を胴縁配置面に貼り付けます。

取込範囲を指定します。取り込みたい範囲を右ドラッグで範囲選択し、次へをクリックします。

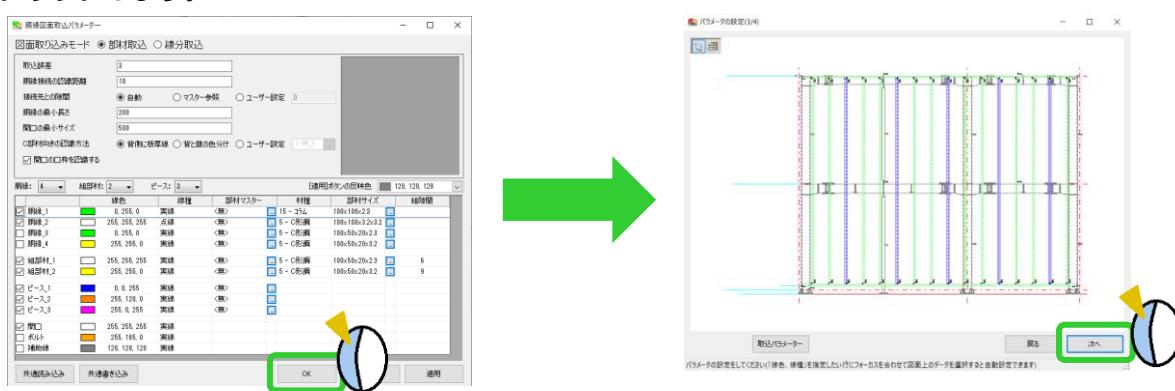


CADデータを読み込んで胴縁を配置したい！② 図面取込でできます。

胴縁図面取込パラメーターが起動します。

処理内容を『胴縁自動取込み行う』・『図面貼り付けと胴縁自動取込を両方行う』の部材データを取り込む場合に必要な設定のため、今回は設定せずOKまたはキャンセルをクリックしてパラメーター画面を終了し、

次へをクリックします。



図面を取り込む際の基準点を指定します。

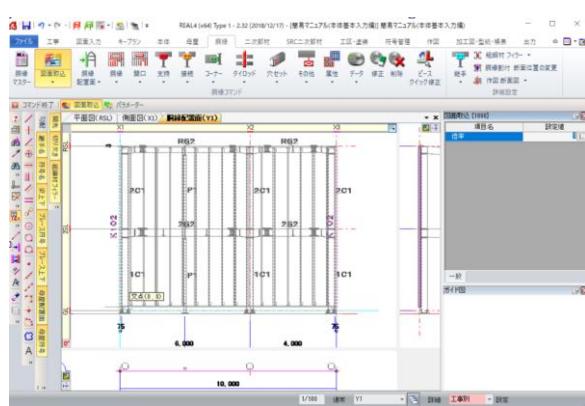
基準として最下階高ラインと一番左の通りラインの交点をクリックし、配置面へをクリックします。



配置画面に戻ります。

基準点位置に合わせて画面上をクリックします。

取り込んだ図面が補助線として表示されます。



図面貼り付けを行った場合、読み込んだ図形・文字は補助線・補助文字として登録されます。

補助線レイヤー設定で名称の変更や表示の有無を設定できます。

名称を取り込んだ通り名に変更しておくと便利です。非表示にしたい場合はすべてに表示の□を外して下さい。



? 母屋・胴縁で登録したマスターを標準設定にしたい！

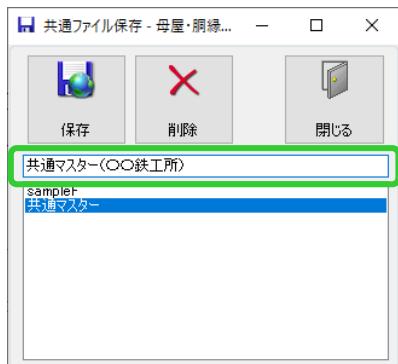
共通保存しておくと、新規工事作成時に選択可能です。

【母屋マスター】または【胴縁マスター】で部材やピースなどを登録後、

【ファイル】 - 【共通保存】をクリックします。

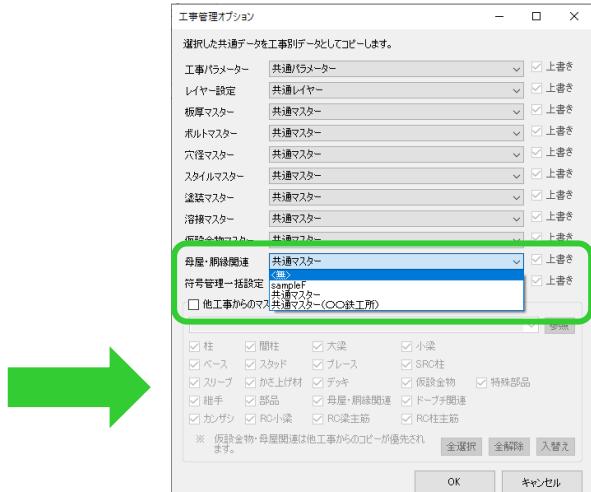


共通マスターの名称を入力し、保存します。



既存の『共通マスター』『sampleF』に上書き保存すると、バージョンアップのタイミングなどで内容が初期値に戻る可能性があります。
必ず名前を入力して共通保存を行ってください。

新規工事を作成する際に、【工事管理オプション】 - 【母屋・胴縁関連】で共通保存したマスターを選択します。
この作業は各パソコンで一度行って頂ければ初期値となり、次回から行う必要はありません。



共通化を行う前に作成した工事に共通保存したマスターを使用したい場合、

【工事管理オプション】 - 【母屋・胴縁関連】を選択し上書きにチェックを付ける、または【母屋・胴縁マスター】 - 【ファイル】 - 【共通読込】で保存したマスターを選択し読み込みを行います。

ただし、既に母屋・胴縁を配置している場合は、使用しているマスターが削除されるので行わないでください。

部品マスターで使用した部品を共通化したい！

母屋・胴縁マスター内で標準設定されている部品は登録可能です。

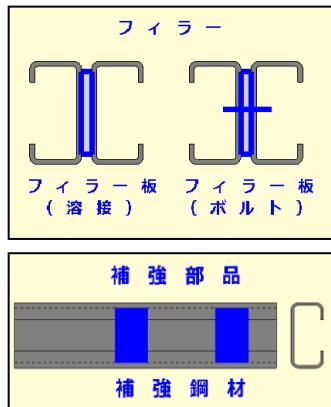
母屋・胴縁マスター - 部材マスター やピースマスターで使用しているフィラーや端部部品・補強部品は、

【母屋・胴縁マスター】 - 【ファイル】 - 【共通保存】で、部材・ピースと合わせて共通化します。

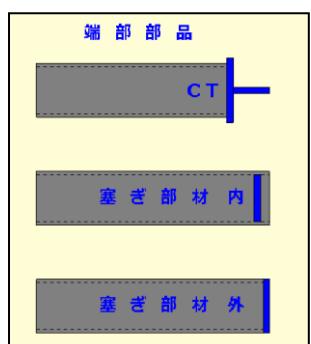


<部材マスターにて設定可能な部品>

部材名	D2W
管理名	
メモ	胴縁 背合せ
材種	5 - C形鋼
サイズ	100x50x20x2.3
材質FLG	4 - SSC400
定尺長さ(m)	12
鋼材組み合わせ	2 - I
組鋼オオキナ	6
フィラー	6 / PL-6x80 / 2G背合せ用
スチール位置	3 - 中心
端部部品	なし
補強部品	なし
又分け	PL6
接続ピース	PL6W
コーナーピース	PL6C
カラー設定フラグ	1 - しない

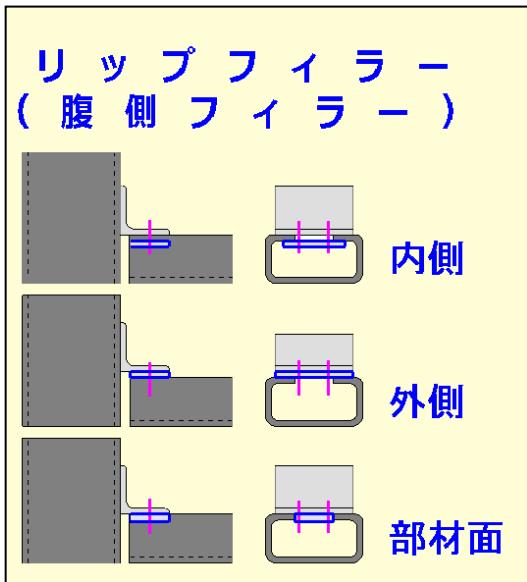
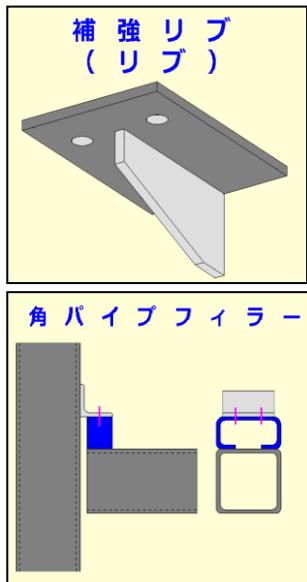


部材名	K102
管理名	
メモ	胴縁口
材種	17 - STKR
サイズ	100x100x2.3
材質FLG	60 - STKR400
定尺長さ(m)	12
ピース取付け位置	1 - 背
端部部品	CT / BT-96x100x6x6
補強部品	なし
支持ピース	PL6
接続ピース	PL6W
コーナーピース	PL6C
カラー設定フラグ	1 - しない



<ピースマスターにて設定可能な部品>

部材名	PL6
管理名	
メモ	
ピース種類	1 - 支持ピース
型紙・部品名生成方法	1 - 符号管理
材種	1 - プレート
サイズ	6
長さ	90
材質	1 - SS400
自動サイン用脚	2 - する
補強部品	Rib / PL-6x100 / PLネコ補強用
端部自動引抜・削正	1 - しない
接続(ウェブ)	2 - ボルト接続
ボルト合わせ位置	0
PL接続長	0
PL形状	7 - パターン?
PL斜めの立ち上がり	0
スカラップ種類	1 - パラメーター
スカラップ径	0
立ち上がり	0
口形鋼拘束フック	3 - フィラーあり(全鋼材)
角パイプフィラー	100 / C-100x50x20x2.3
角パイプフィラー向き	1 - リップ内側
角パイプフィラーを回転	1 - しない
△押さえ(△押さえ板は板面)	3 - フィラーあり
リップフィラー	32 / PL-32x80 / PL3.2
ボルト種類	4 - BTN
ボルト貫通	2 - する
ボルト径	12



部材マスター やピースマスターで使用していない部品を共通部品マスターに登録したい場合は

【母屋・胴縁マスター】 - 【ファイル】 - 【共通保存】では共通化されないため、

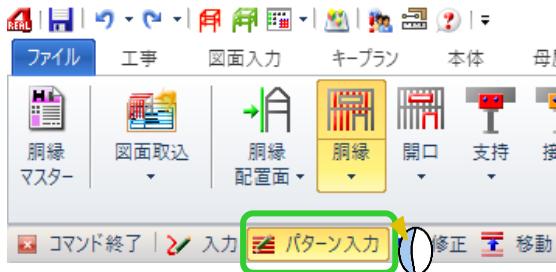
部品マスターで**共通化**を行ってください。



胴縁でパターンを指定して入力したい！

胴縁・パターン入力 からできます。

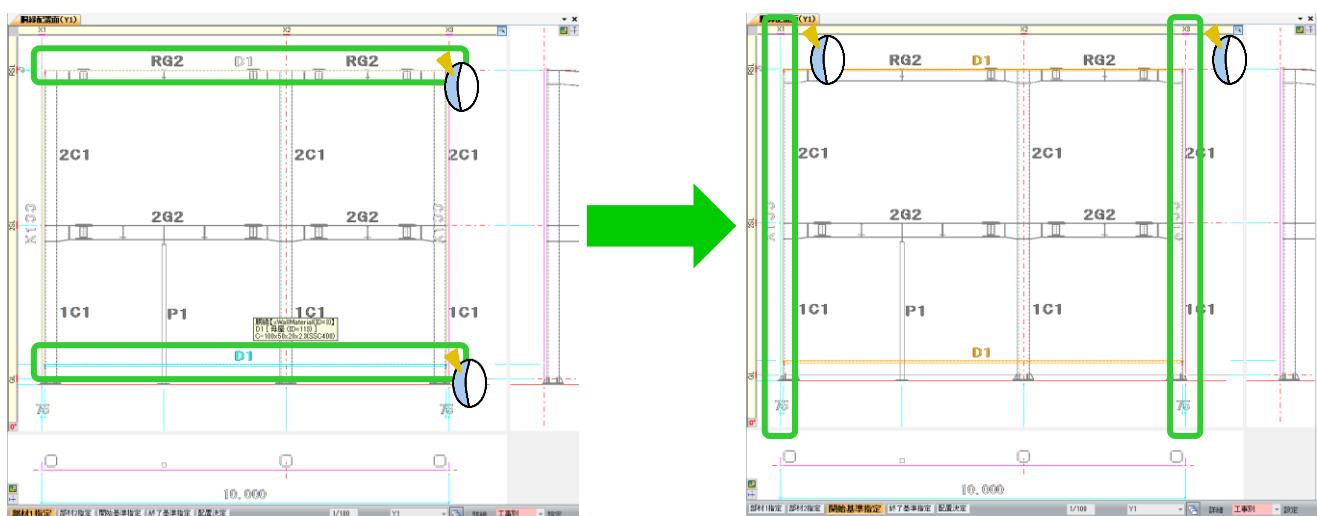
【胴縁】 - 【パターン入力】をクリックします。



例) 縦胴縁をパターン入力

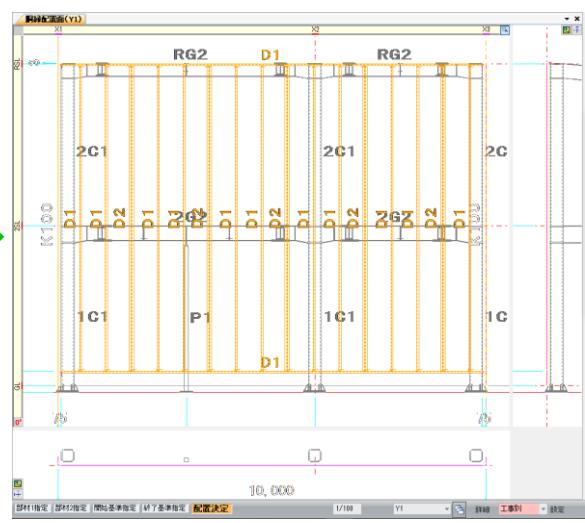
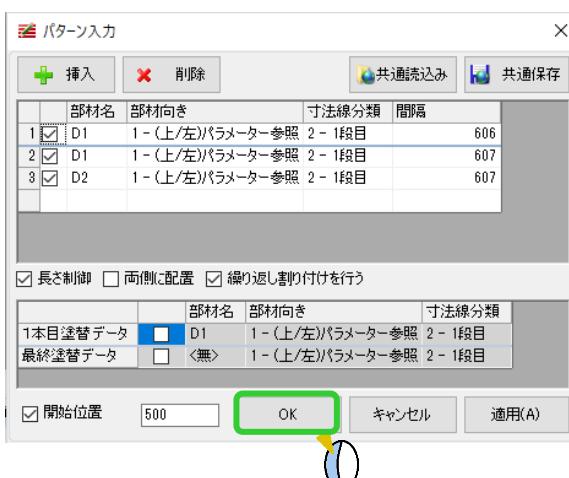
パターン入力する縦胴縁の接続先になる胴縁をクリックします。

続けて、パターン入力の開始基準(X1通り)と終了基準(X3通り)を指定します。



パターン入力設定画面を表示するので、部材名や間隔などを設定します。

OKをクリックすると配置決定します。



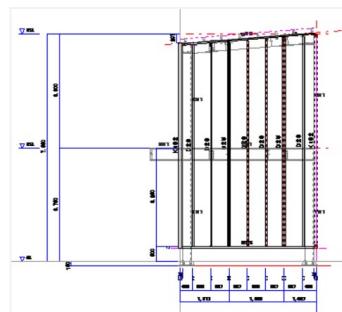
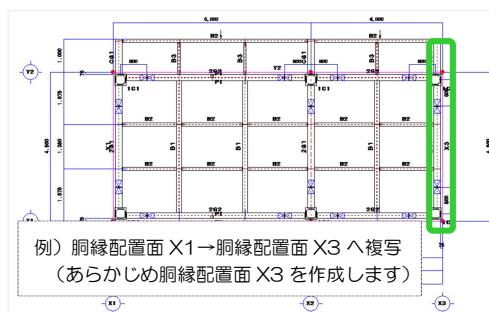
❓ 胴縁を複写したい！(通常複写、反転複写)

[配置面一括複写] にて配置面ごとに複写が可能です。

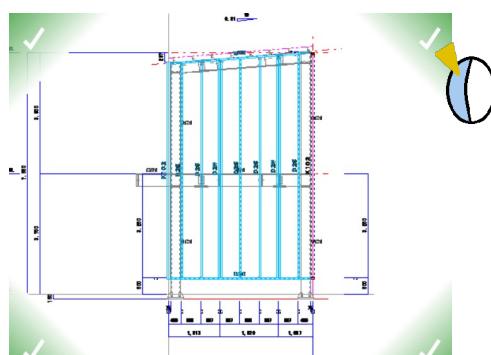
事前に胴縁を複写したい面に胴縁配置面を作成してください。

複写したい胴縁を配置した胴縁配置面を開きます。

【胴縁】 - 【データ】 - 【配置面一括複写】 をクリックします。



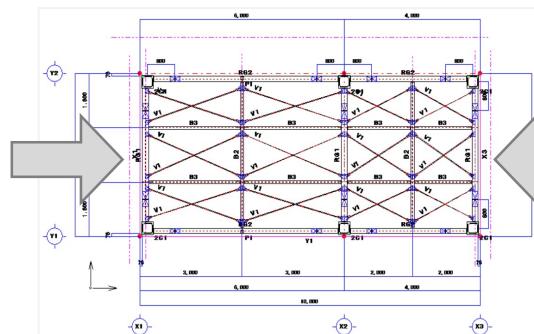
複写したい胴縁を選択し画面四隅にある□をクリックします。



通常複写
胴縁の配置データをそのままの方向で複写します。



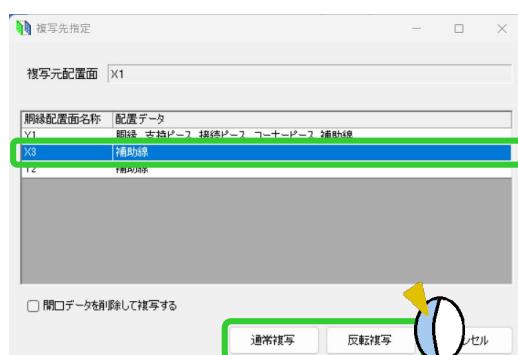
反転複写
胴縁の配置データの方向を反転して複写します。
複写面の視野方向が反対の場合は【反転複写】にて複写を行います。



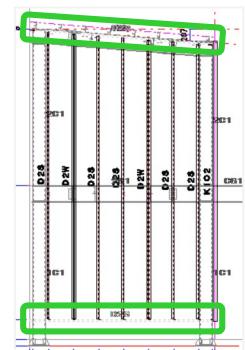
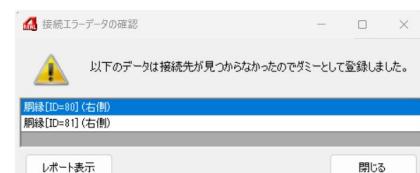
複写先指定画面が起動します。

複写先になる胴縁配置面を選択し

【通常複写】または【反転複写】をクリックします。



複写先に接続先となる胴縁がない場合、接続先胴縁としてダミー材が配置されますので複写後に配置、接続先をご確認ください。



▣ 開口データを削除して複写する

複写元配置面と複写先配置面で開口位置が異なる場合、『開口データを削除して複写する』にチェックを入れると、複写元にある開口データを削除した状態で胴縁のみを複写することができます。

?, 胴縁に沿ってC形鋼を溶接してピースを取り付けたい！

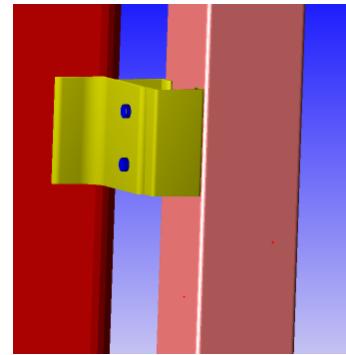
マスターで設定できます

例) 角パイプに取り付ける支持ピースの場合

【胴縁】 - 【胴縁マスター】 - 【ピース】をクリックします。

『口形鋼接続スタイル』を『2-フィラーあり（角パイプ鋼材）』にします。

『角パイプフィラー』に角パイプフィラーの部材名を入力します。



補強リブ	<なし>
補強リブ自動サイズ調整	1 - しない
□ 接続(ウェブ)	2 - ボルト接続
ボルト合わせ位置	0
口形鋼接続スタイル	2 - フィラーあり(角パイプ鋼材)
角パイプフィラー	KF
角パイプフィラー向き	1 - リップ内側
角パイプフィラーを回転	1 - しない
○形鋼リップ側接続スタイル	2 - フィラーアリ
リップフィラー	F3.2 / PL-3.2x80 / PL3.2
□ ボルト種類	4 - BTN
ボルト貫通	2 - する
ボルト径	12

口形鋼接続スタイルで『3-フィラーあり（全鋼材）』を選択した場合、すべての鋼材に角パイプフィラーを取り付け、ピースを配置します。

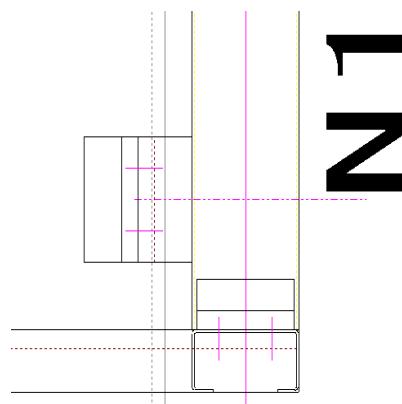
口形鋼接続スタイル	3 - フィラーあり(全鋼材)
角パイプフィラー	1 - フィラーアリ
角パイプフィラー向き	2 - フィラーアリ(角パイプ鋼材)
角パイプフィラーを回転	3 - フィラーあり(全鋼材)
○形鋼リップ側接続スタイル	2 - フィラーアリ

【胴縁マスター】 - 【部品】をクリックします。

ピースマスターで入力した角パイプフィラーネームをクリックして、サイズ等を入力します。

部材名	KF	管理名	メモ
部品種類	14 - 角パイプフィラー		
材種	5 - ○形鋼		
サイズ	100x50x20x2.3		
長さ	100		
材質	4 - SSC400		
溶接実長(mm)	80		

【胴縁】 - 【支持】 - 【入力】または【位置指定入力】で、登録した角パイプフィラー付きのピースを選択し入力します。



ピースの取付位置は【部材マスター】・各ピース入力または修正時の『ピース取付位置』・『ピースクイック修正』で設定または変更できます。

ピース取付位置	1 - マスター参照
L形ピース向き	1 - マスター参照
奥行き長さ	2 - 中心
支持親合わせ基準	3 - 左
(左)両側ピース時のす	4 - 右
(右)両側ピース時のす	5 - 左右
	6 - パラメーター参照

角パイプに塞ぎ部材を入れたい！

「部品マスター」で作成できます。

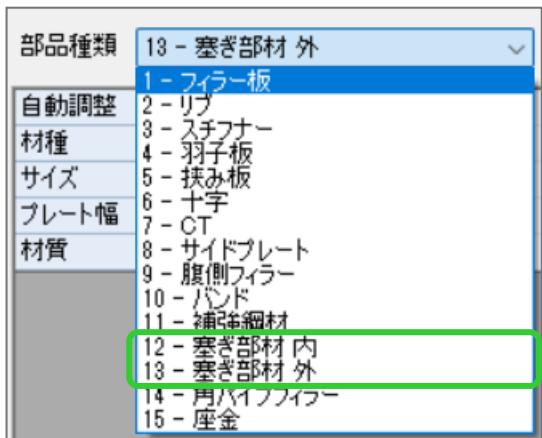
例) 胴縁に塞ぎ部材を設定する場合

【母屋・胴縁マスター】 - 【部品】をクリックします。



【部品种類】 - 【12.塞ぎ部材 内】または【13.塞ぎ部材 外】を選択し、以下のように設定します。

(今回は【13.塞ぎ部材 外】を選択します)



自動調整	2 - 自動設定
材種	1 - プレート
サイズ	6
プレート幅	0
材質	1 - SS400

【塞ぎ部材 外】の登録で、【自動調整】 - 【2-自動設定】を選択した場合は部材のサイズに合わせて塞ぎ部材の大きさが決まります。その際【プレート幅】の項目に数値を入力しても反映されません。

【母屋・胴縁マスター】 - 【部材】で塞ぎ部材を設定

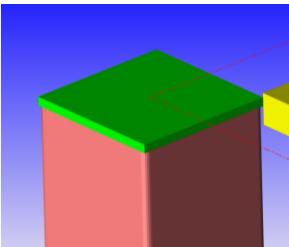
したい部材を選択し、【端部部品】で【部品マスター】で作成した塞ぎ部材を選択します。

部材名	K102
管理名	
メモ	胴縁口
材種	17 - STKR
サイズ	100x100x2.3
材質	60 - STKR400
定尺長さ(m)	12
ピース取付位置	4 -両側
端部部品	<なし>
補強部品	フタ外 / PL-6
支持ピース	<配置時に決定>
接続ピース	<配置時に決定>
コーナーピース	<配置時に決定>
カラー設定フラグ	1 - しない

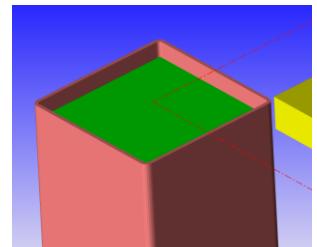


配置した母屋・胴縁に塞ぎ部材が反映されます。

【塞ぎ部材 外】



【塞ぎ部材 内】



個別に端部部品の有無を設定する場合は母屋・胴縁の入力時または修正時に（上下）それぞれに設定が可能です。

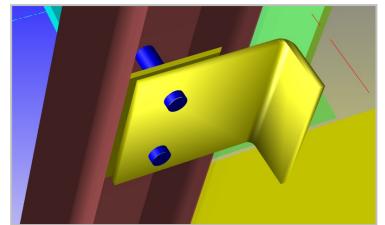
左側 タイトル	右側 タイトル
コーナーピース名	コーナーピース名
すきま	溶接
延長量	0
取付位置	1 - マスター参照
L形ピース向き	1 - 自動
L形ピース接続反転	1 - 通常
ピース弱體取付位置	1 - ウェブ面
取付オフセット	0
(左)面側ピース時のすきま (0)パラメーター参照	
端部材部品マスター (<無>)マスター参照	端部材部品マスター フタ外
ウェブ形状	1 - (直角) パラメーター参照
端部材部品マスター	端部材部品マスター フタ外
端部材回転角度	0

【塞ぎ部材 内】を登録する場合は、【端部の入り】で母屋・胴縁の端部からの入りの数値を設定する事ができます。

【塞ぎ部材】は母屋・胴縁のみ設定する事ができます。
梁、間柱の端部には設定できません。

リップ側フィラーの設定をしたい！

胴縁・母屋マスターで設定ができます。

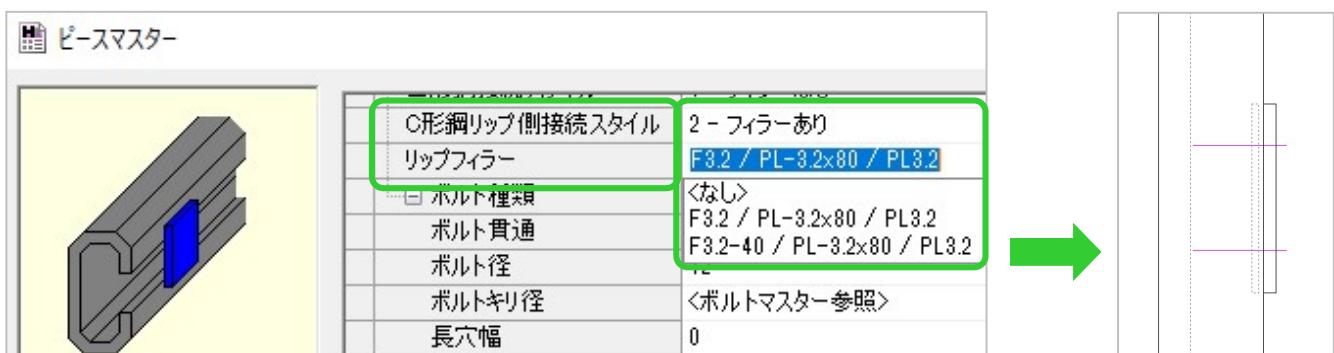


【胴縁】もしくは【母屋】タブにてマスターを開き、【ピースマスター】を開きます。

リップ側フィラーを設定したいピースの部材名をダブルクリックし、編集画面を開きます。

部材名	ピース種類	材種・サイズ	材質	メモ
N1	支持ピース	PL - 6x90	SS400	PL6-2
N1J	接続ピース	PL - 6x90	SS400	PL6-2
K1	コーナーピース	コネクタ - 55x40x3	SS400	KP2-30-3.2S

[C形鋼リップ側接続スタイル] を [2 - フィラーあり] と設定し、[リップフィラー] にフィラー板を設定すると、ピースがリップ側配置時にリップフィラーが配置されます。



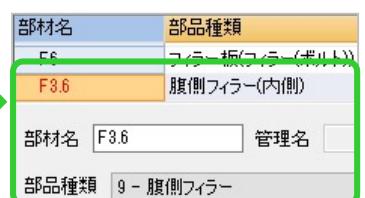
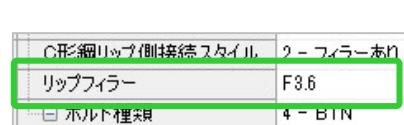
フィラー板の登録について

[リップフィラー] の項目で選択できるフィラー板は、あらかじめ【部品マスター】にて登録されています。別サイズを使用されるときは【部品マスター】で新規登録をしてください。



<ピースマスターで名前を付けてから部品マスターで登録する場合>

【ピースマスター】にて [リップフィラー] 項目へフィラー板部品名を新規入力した後、【部品マスター】で部品種類を [9 - 腹側フィラー] としてフィラー板を登録します。



既製品リップフィラーについて

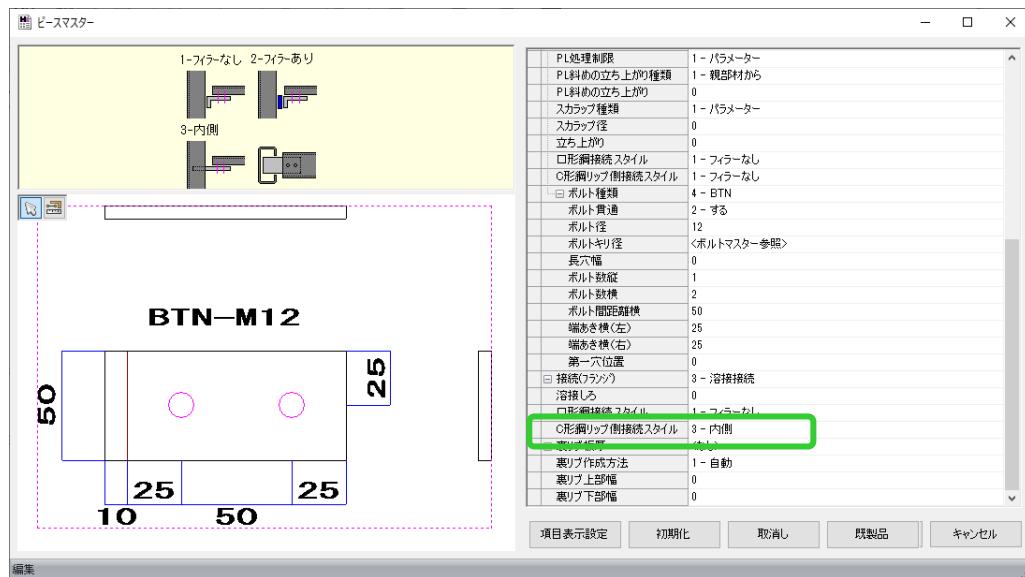
現在、REAL4 では既製品のリップフィラーには対応しておりません。使用したい場合は、既製品に近い形を【部品マスター】にて作成し、[フィラー位置] は [3 - 部材面] を選択し、登録をしてください。



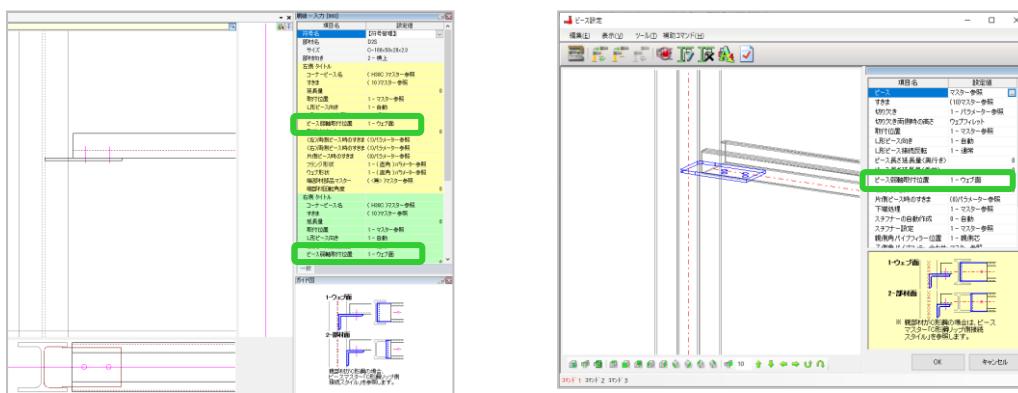
? プレートのコーナーピースをC形鋼の内側まで伸ばしたい！ ピースマスターで設定可能です。



【ピースマスター】にてコーナーピースを登録する際に、【接続(ラグ)】項目内の【C形鋼リップ側接続スタイル】を【3-内側】にすることで、C形鋼の内側まで伸ばすことが可能となります。



H形鋼のウェブ面までピースを伸ばしたい場合は、【胴縁】→【入力(修正)】時、もしくは【継手】→【入力】にて【ピース弱軸取付位置】を【1-ウェブ面】に設定してください。



胴縁ピースのスカラップ形状を変更したい！

パラメーター設定より変更可能です。

【ファイル】 - 【パラメーター】をクリックします。

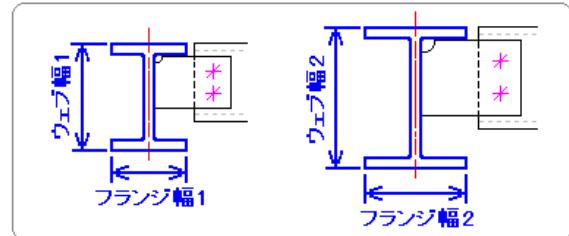


【データ作成】 - 【42.胴縁データ作成関連】 - 29) 胴縁スカラップ の をクリックし、
胴縁スカラップの設定画面を表示します。

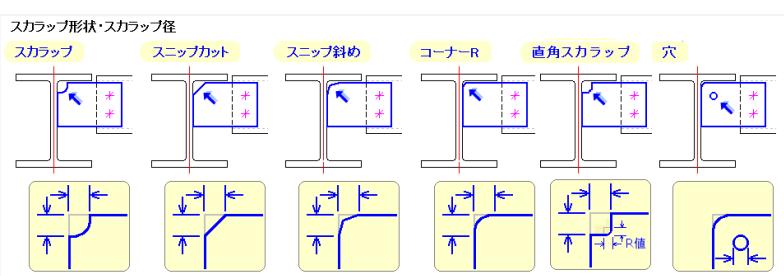


「ウェブ、フランジサイズ範囲値」にて、
指定値 1 と 2 を設定します。

ウェブ・フランジサイズ範囲



※「指定値 1 以下」「指定値 1 より大、指定値 2 未満」「指定値 2 以上」の設定の内どの設定を見るかは、こちらの数値を元に決まります。



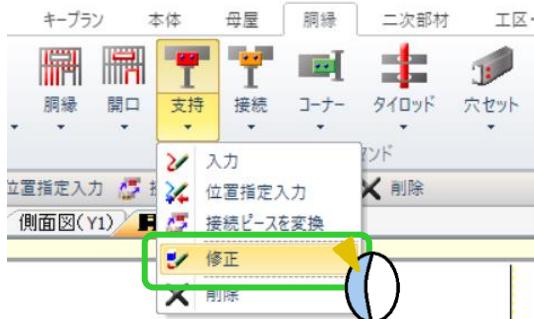
母屋・胴縁マスターの『接続(ウェブ)』が〈2 - ボルト接続〉の場合、『スカラップ径』で
〈1 - パラメーター〉を選択いただいた場合、こちらの設定を参照致します。

接続(ウェブ)	2 - ボルト接続
ボルト合せ位置	0
PL接続長	0
PL形状	7 - パターン?
PL斜めの立ち上がり	0
スカラップ種類	1 - パラメーター
入力スカラップ径	0

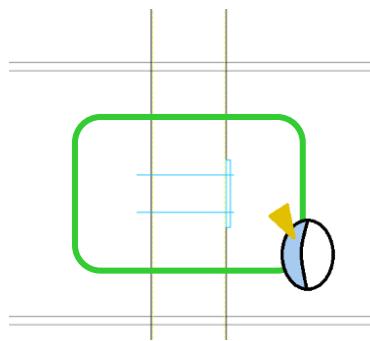
支支持ピースで部材を両側から挟み込むように配置したい！

支持ピースの修正で出来ます。

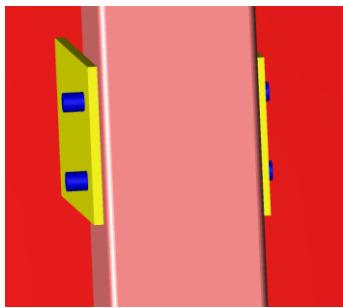
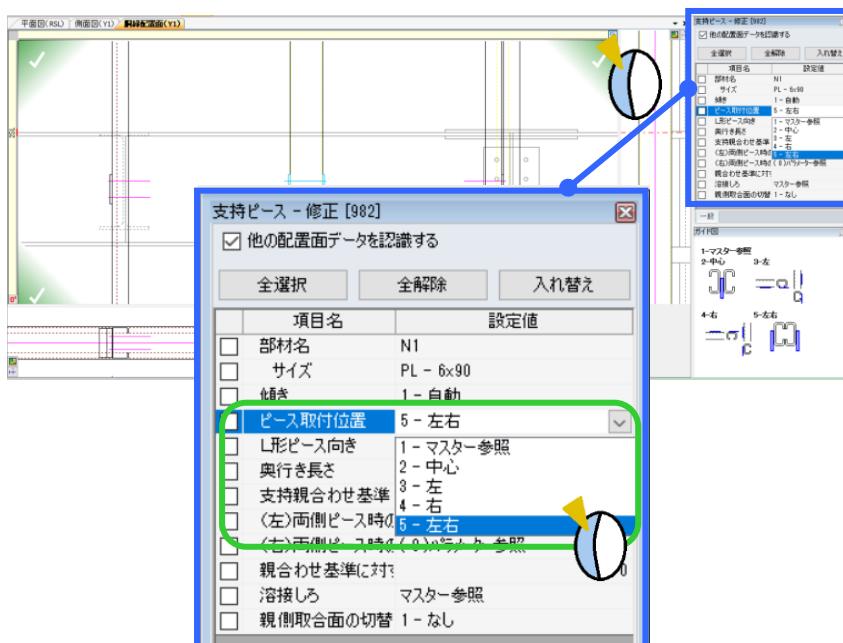
【支持】 - 【修正】をクリックします。



① 修正したいピースを選択します。



② 入力シート【ピース取付位置】を【5-左右】に変更し
四隅の図をクリックします。



<部材マスターの設定>

部材マスターでピース取付位置を設定することも出来ます。

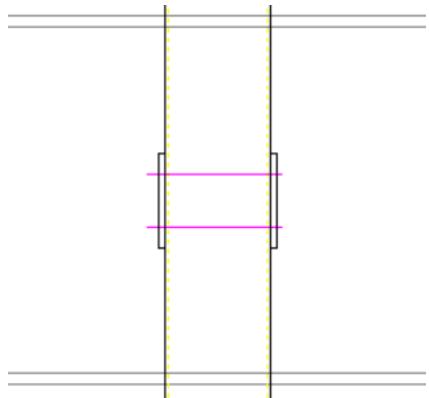
【部材マスター】 - 【ピース取付位置】で【4-両側】を選択します。

支持ピースを配置時に【ピース取付位置】 - 【1-マスター参照】にすることで部材マスターを参照し、両側から挟み込む形で配置されます。

<部材マスター>

部材名	K102
管理名	
メモ	胴縁口
材種	17 - STKR
サイズ	100x100x2.3
材質	60 - STKR400
定尺長さ(m)	12
ピース取付位置	1 - 背
端部部品	1 - 背
補強部品	2 - 腹
支持ピース	4 - 両側
接続ピース	<配置時に決定>
コーナーピース	K2 / PL6-2
カラー設定フラグ	1 - しない

<修正後>



胴縁の鋼材側に長穴(ルーズ孔)をあけたい！

ピースマスターで鋼材側かピース側かの指定ができます。

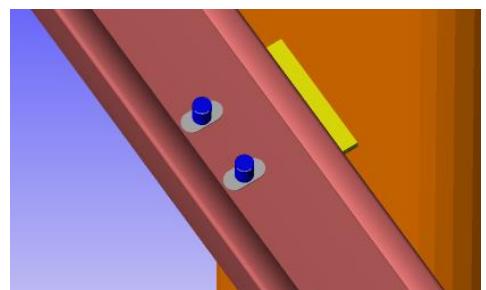
例) 鋼材にあく支持ピースのボルト穴を長穴(ルーズ孔)にする

【胴縁】 - 【胴縁マスター】 - 【ピース】をクリックします。

支持ピースの【長穴幅】に長穴にした時の幅の数値を入力します。

長穴幅に数値入力すると【長穴向き】【長穴場所】の項目が表示されます。

【長穴向き】 = 【1-縦】、 【長穴場所】 = 【1-部材側】と入力します。

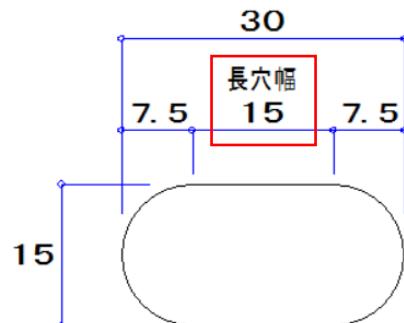


□ ボルト種類	4 - BTN
ボルト貫通	2 - する
ボルト径	12
ボルト孔径	<ボルトマスター参照>
長穴幅	15
長穴向き	1 - 縦
長穴場所	1 - 部材側
ボルト数横	1
ボルト数縦	2



ルーズ孔の全長について
長穴幅 + (ボルト穴半径×2) = ルーズ孔全長
となります。

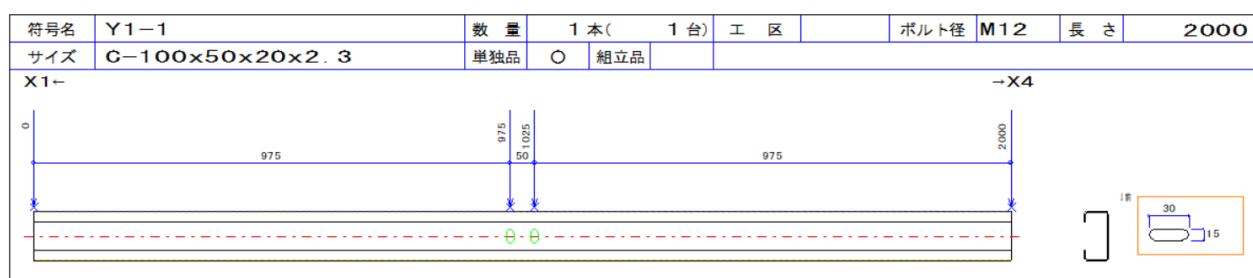
例) ボルト穴径 ø15、長穴幅 15mm



【胴縁】 - 【支持】 - 【入力】または【位置指定入力】で、
長穴設定した支持ピースを選択し、入力します。



鋼材側が長穴になったことを確認します。長穴は加工図で確認ができます。



長穴のある胴縁を NC 孔あけデータ変換で NC システムファイル変換を行い、NC システム 3 で使用する場合は、NC3 側で長穴の設定が必要になります。

NC3 【NC パラメーター】 - 【17.NC データ作成】 39.長穴、40.長穴の返還不可時の穴位置

39 長穴	2 - 変換する
40 長穴の変換不可時の穴位置	1 - 中心

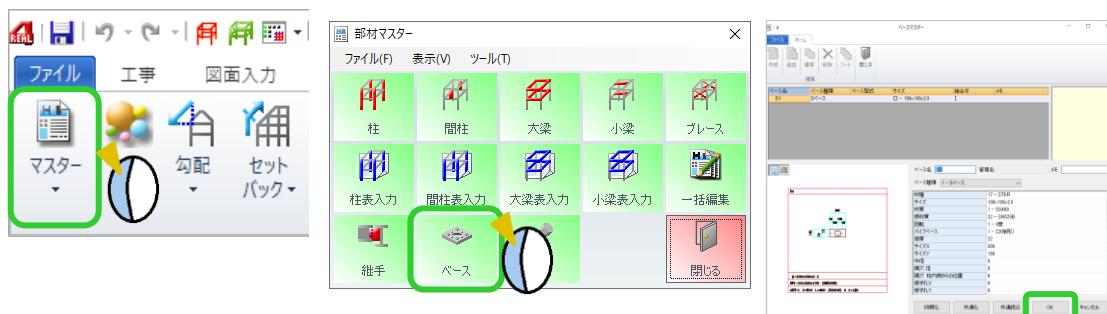
※NC 孔あけデータ変換のその他ファイル変換は長穴未対応です。

胴縁にベースPLを取りつけたい！

ベースマスターで登録し、コーナーピースで入力できます。

【本体】 - 【マスター】 - 【ベース】をクリックします。

ベースの情報を入力し、OKをクリックして登録します。

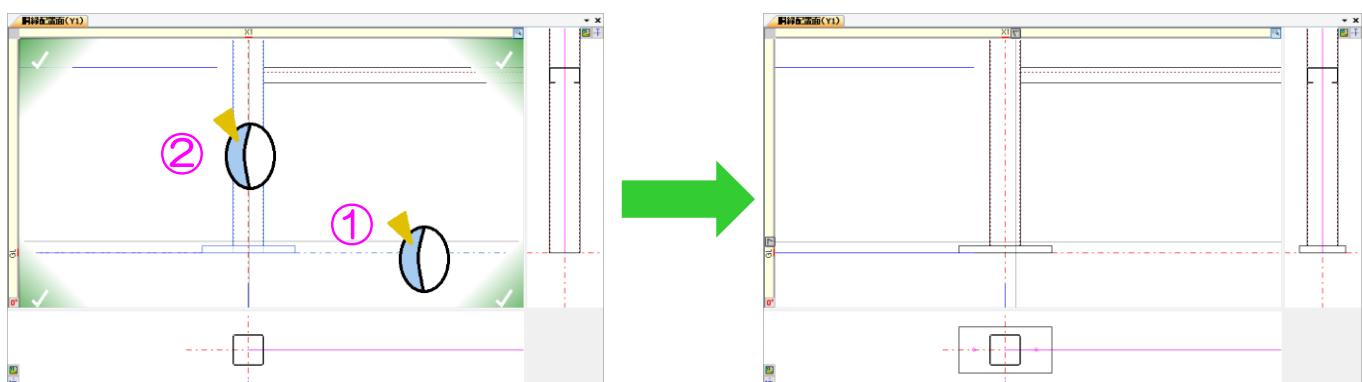


【胴縁】 - 【コーナー】 - 【入力】をクリックし、部材名の...ボタンをクリックします。

【ベース】タブをクリックして、登録したベースを選択しOKをクリックします。



①接続先（例：GL ライン）・②胴縁の順にクリックし、四隅の☑をクリックすると
アンカーベースを配置します。



? 胴縁配置面で出てこない梁があるのはなぜ? <パラメーター>で設定出来ます

【作図パラメーター】

【図面作成】 - 16.胴縁軸組図 - 5) 部材表示制限（手前）、6) 部材表示制限（奥側）で数値を変更します。

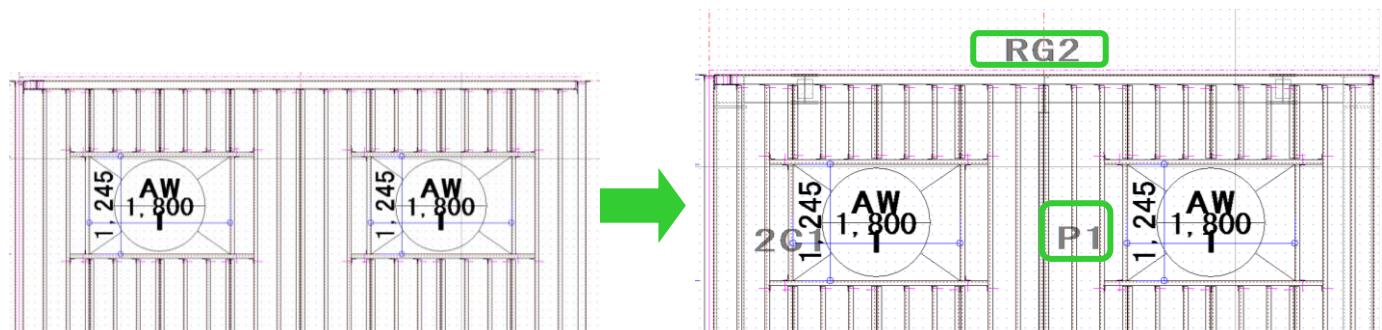
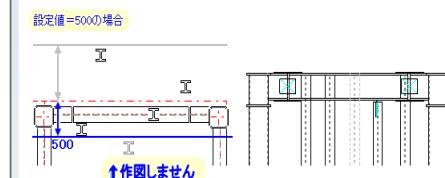
通りから指定値以内にある梁・間柱を表示させる設定です。

★お気に入り履歴 ★お気に入り追加 ★お気に入りデータ並び替え ★お気に入り設定

工事別/パラメーター : 16.胴縁軸組図

項目名称	設定値
1 作図間隔1 (mm)	80
2 作図間隔2 (mm)	80
3 階高名称線	1 - 寸法線まで
4 階高名称位置	1 - 外側
5 部材表示制限(手前) (mm)	200
6 部材表示制限(奥側) (mm)	200
7 部材表示制限(左側) (mm)	500
8 部材表示制限(右側) (mm)	500
9 部材表示制限(内側)	立面八方以外のみ表示
10 通り表示	2 - 板厚表示
11 内外アスペクト	3 - 板厚表示
12 部材板厚表示	2 - あり
13 柱セクターライン	1 - なし
14 梁セクターライン	1 - なし
15 梁断面表示	2 - あり
16 梁上下表示	1 - なし
17 間柱ベース表示	2 - あり
18 柱芯寸法	3 - 配置
19 柱芯寸法制限 (mm)	500
20 間柱間寸法	2 - 下階
21 柱剛性手すり基準	2 - 柱芯

通りから指定値以内(キープランより前側)に間柱芯、梁芯があるもののみ表示します。

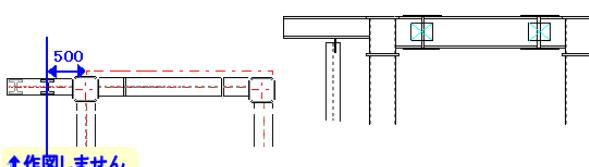


Ver.2.0 以降で、7) 部材表示制限（左側）、8) 部材表示制限（右側）も設定が可能です。

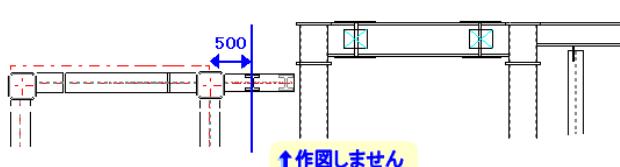
7) 部材表示制限（左側）

8) 部材表示制限（右側）

設定値=500の場合



設定値=500の場合



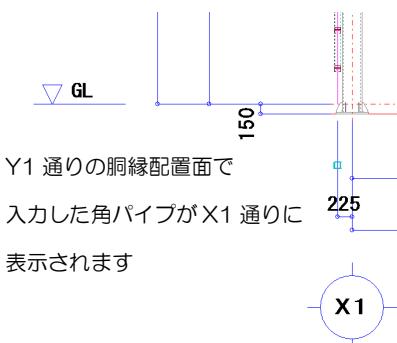
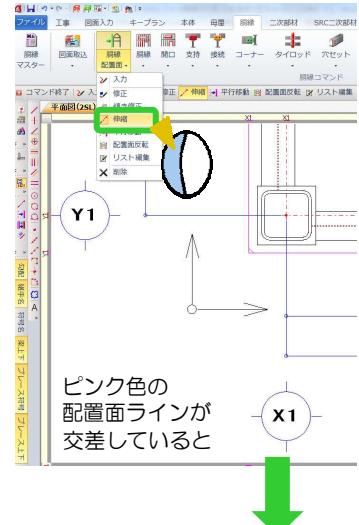
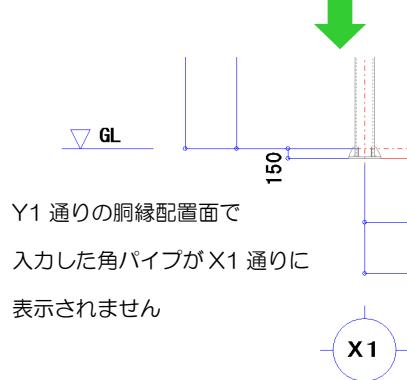
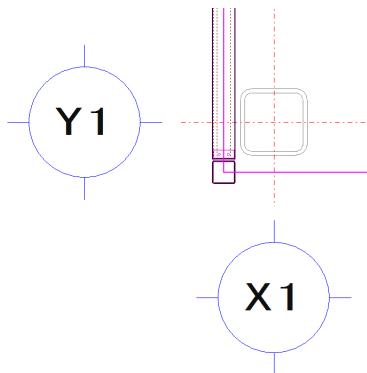
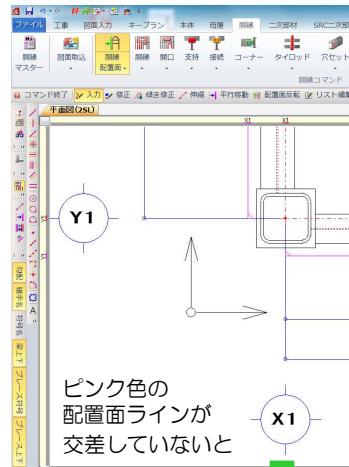
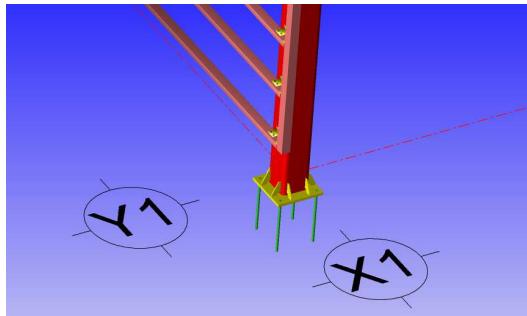


コーナーに入力した胴縁が交差する相手側の配置面に表示されない！

配置面のラインを交差させると相手側の面でも表示されます。

交差する通りの配置面のラインが交差せず離れてしまっている場合は、【胴縁配置面】 - 【伸縮】より配置面のライン同士が交差するよう伸縮してください。

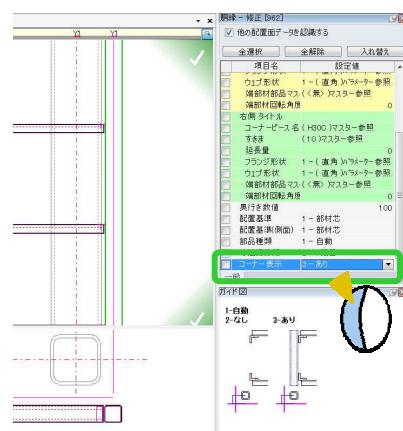
例) X1 通りでコーナーの角パイプを
入力した場合



配置面のラインが交差しているのにコーナーの胴縁が表示されない！

コーナー表示を「あり」にすると表示されます。

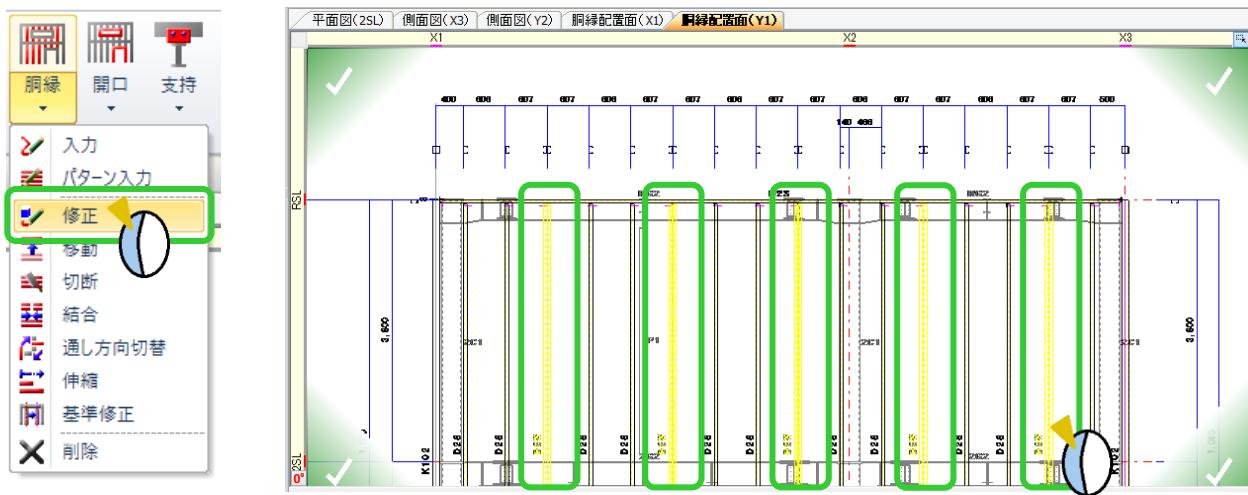
【胴縁】 - 【修正】より【コーナー表示】が【1-自動】になっている場合、胴縁配置面同士の交差部に胴縁芯がある胴縁のみを相手側の胴縁配置面に表示しています。
胴縁に奥行き数値を入力された場合、配置面のラインと胴縁芯がずれてきますので、強制的に表示させたい場合は、【コーナー表示】を【3-あり】に変更してください。
【3-あり】の場合、交差部から 500 以内の胴縁に有効です。



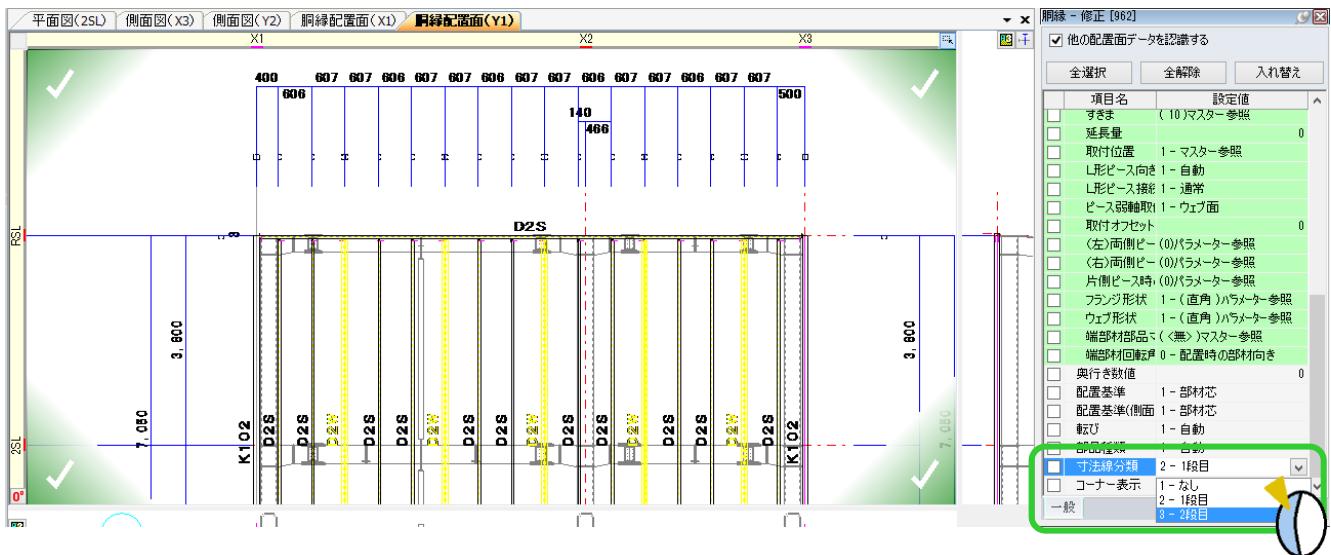
❓ 胴縁で2C間の寸法を作図したい！

寸法線分類で出来ます。

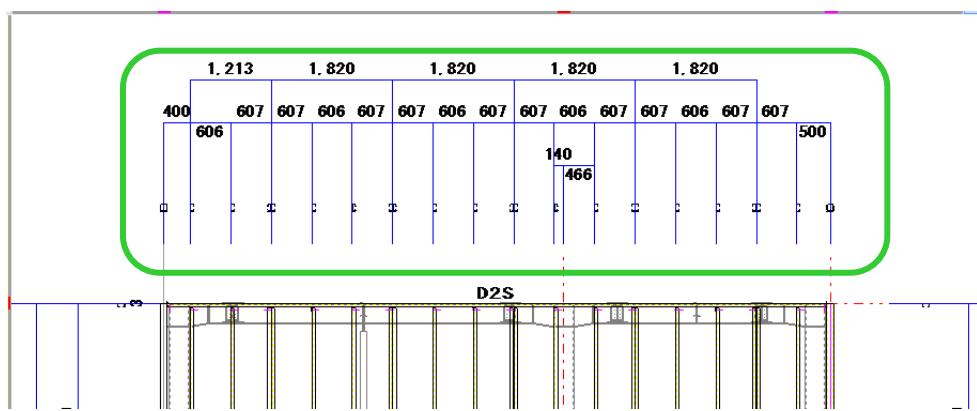
【胴縁】 - 【修正】をクリックし、寸法を作図したい 2C の胴縁をクリックします。



【寸法線分類】を【3-2段目】に変更し、四隅の決定ボタンをクリックします。



2C 間の寸法線を作図することができます。



? 開口寸法を消して胴縁割付寸法のみにしたい！(胴縁割付図)

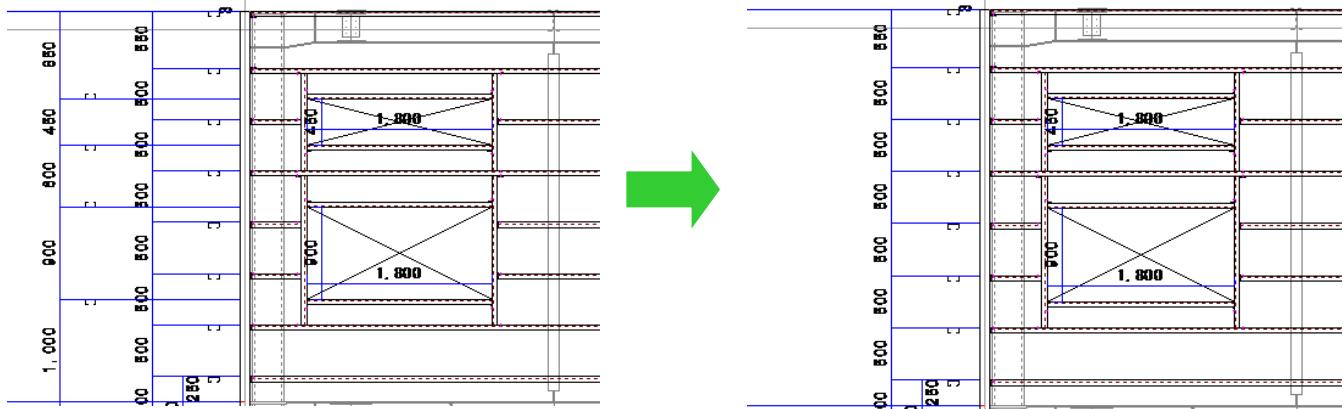
パラメーターで設定します。

【作図パラメーター設定】

図面作成 - 17.胴縁割付図 - 18) 開口寸法表示 で開口寸法の表示を選択します。

項目名称	設定値
17.左側胴縁ウエブ面押さえ縦胴縁	1 - 左側胴縁ウエブ面
18) 開口寸法表示	1 - しない
19) 開口寸法の定位直	1 - 外側
20) 開口寸法の主寸	1 - ナシ

18) 開口寸法表示を『1-しない』にすると開口寸法が消え、割付寸法のみになります。



? 胴縁割付寸法のみにして、開口位置は出せる？(胴縁割付図)

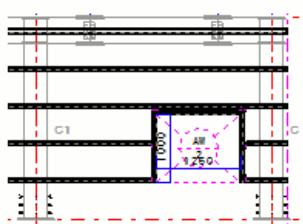
パラメーターで開口位置寸法が出せます。

【作図パラメーター設定】

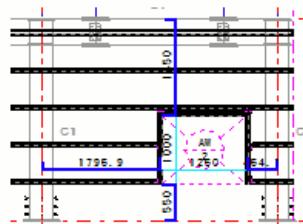
図面作成 - 17.胴縁割付図 - 20) 開口位置寸法表示 で開口寸法の表示を選択します。

項目名称	設定値
19) 開口寸法の足位置	1 - 外側
20) 開口位置寸法表示	2 - する

1.しない



2.する



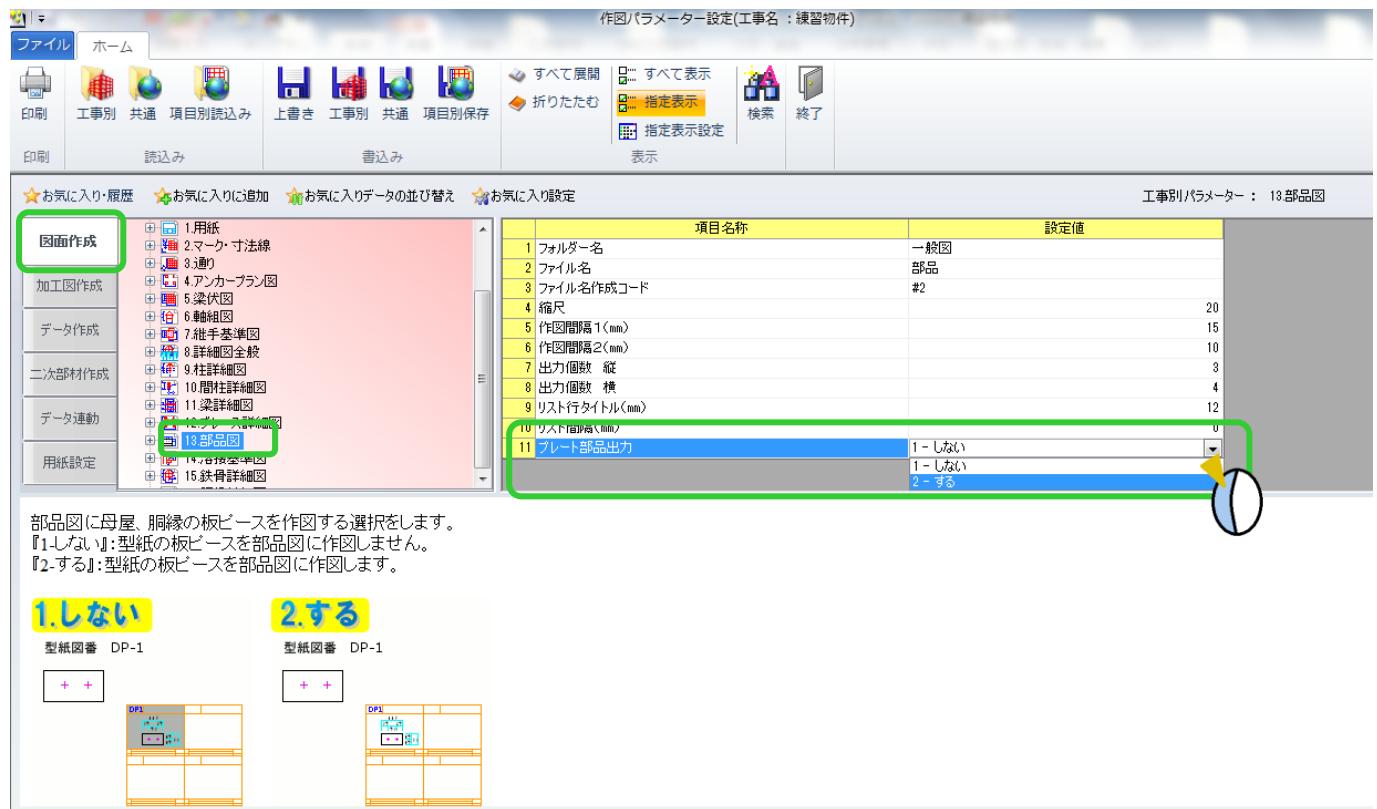
※ 断面図、パネル図も参照します。

胴縁のPLピースを部品図に表示させたい！

作図パラメーターで設定ができます。

【作図パラメーター】

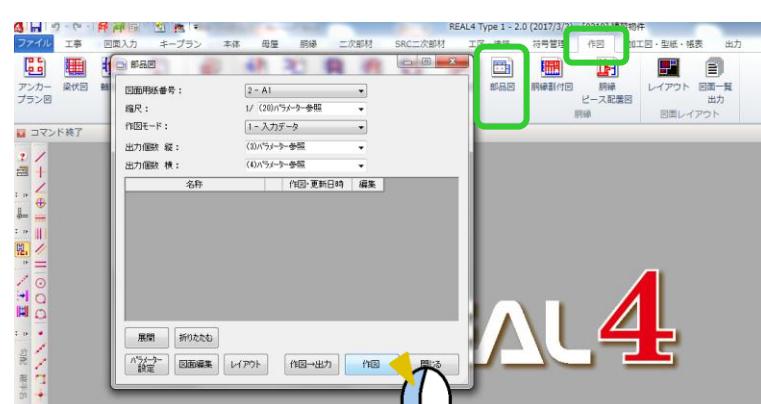
【図面作成】 - 【13.部品図】 - 11) プレート部品出力 を『2-する』に変更してください。



今後の工事にも反映させる場合は、共通パラメーターも同様に変更します。



部品図を作図する場合は
【作図】 - 【部品図】より
行ってください。



? 組胴縁図やパネル図はどこで作図できる？

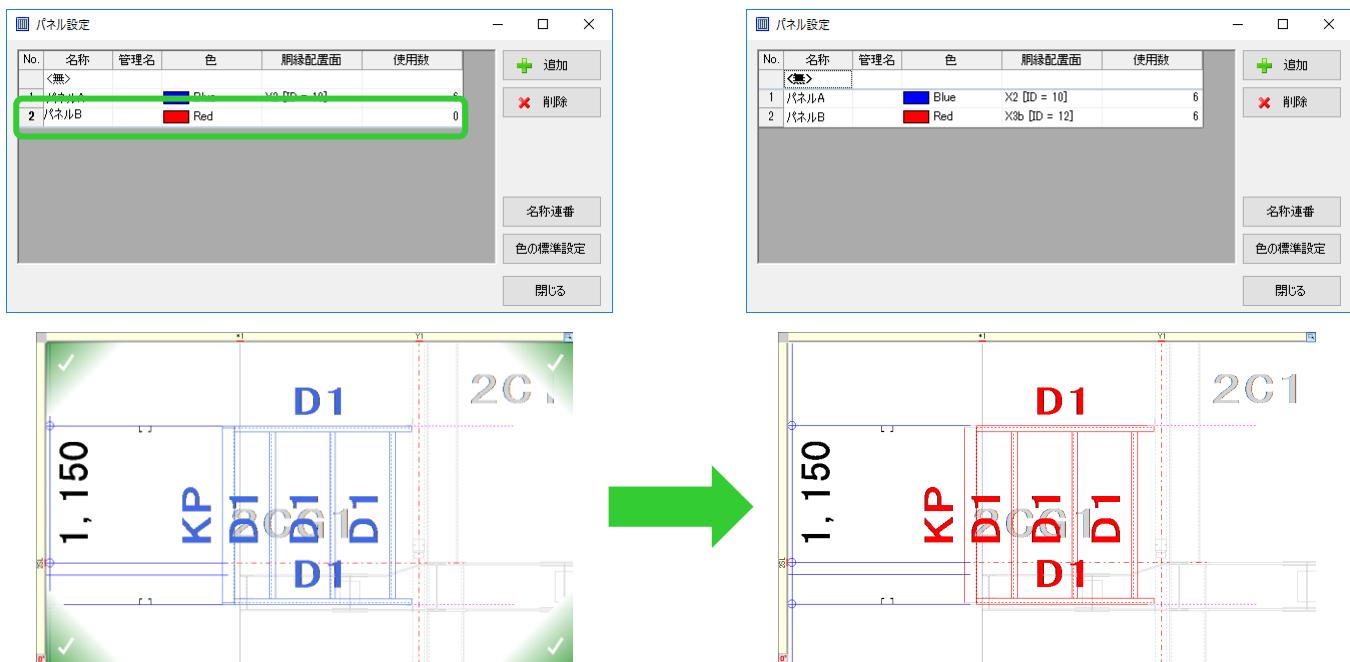
母屋胴縁加工図で作図できます。

【胴縁】 - 【属性】 - 【パネル】または【組胴縁】をクリックします。



【パネル設定】または【組胴縁設定】 - 【追加】をクリックし、名称や色などの設定を入力します。

作成した設定を選択した状態でパネル（組胴縁）にしたい胴縁を選択し、四隅の決定ボタンをクリックします。



【加工図・型紙・帳票】 - 【母屋胴縁加工図】を開き、【パネル図】または【組胴縁図】をクリックします。

【出力】をクリックしてパネル図または組胴縁図を出力します。



②? 脇縁のボルト首下長さが長いのはなぜ?

パラメータで使用するボルト長さを設定します。

脇縁で使用するボルト首下長さは【ファイル】 - 【パラメータ】 - データ作成 - 39.脇縁データ作成関連 - 15) 使用ボルト長さ で設定します。

	項目名称	設定値
13	両側ピース時のボルト位置	1 - そのまま
14	タイロッドのプラス穴径	2
15	使用ボルト長さ	【25, 125】
16	型紙・部品集約許容誤差(mm)	0.1

使用ボルト長さ

25
125

登録数: 2

OK キャンセル

ただし、【共通・工事別マスター】 - 【ボルトマスター】 - 【首下長さ】 - 【首下長さ下限値】で設定されている首下長さ下限値よりも短いボルトは使用できません。



使用ボルト長さの登録がない場合、ボルトマスターの首下長さの設定内容で自動計算したボルト首下長さになります。

母屋のボルトの首下長さも同様に設定できます。

【ファイル】 - 【パラメータ】 - データ作成 - 38. 母屋データ作成関連 - 13) 使用ボルト長さ を参照します。

例) 【首下長さ下限値】が『30』の場合

15) 使用ボルト長さで『25』を登録しても使用できず、『125』を採用するため、脇縁のボルト首下長さが長くなります。

脇縁のボルトで首下長さ『25』を使用したい場合は、【ボルトマスター】 - 【首下長さ】 - 【首下長さ下限値】を『25』に設定して下さい。

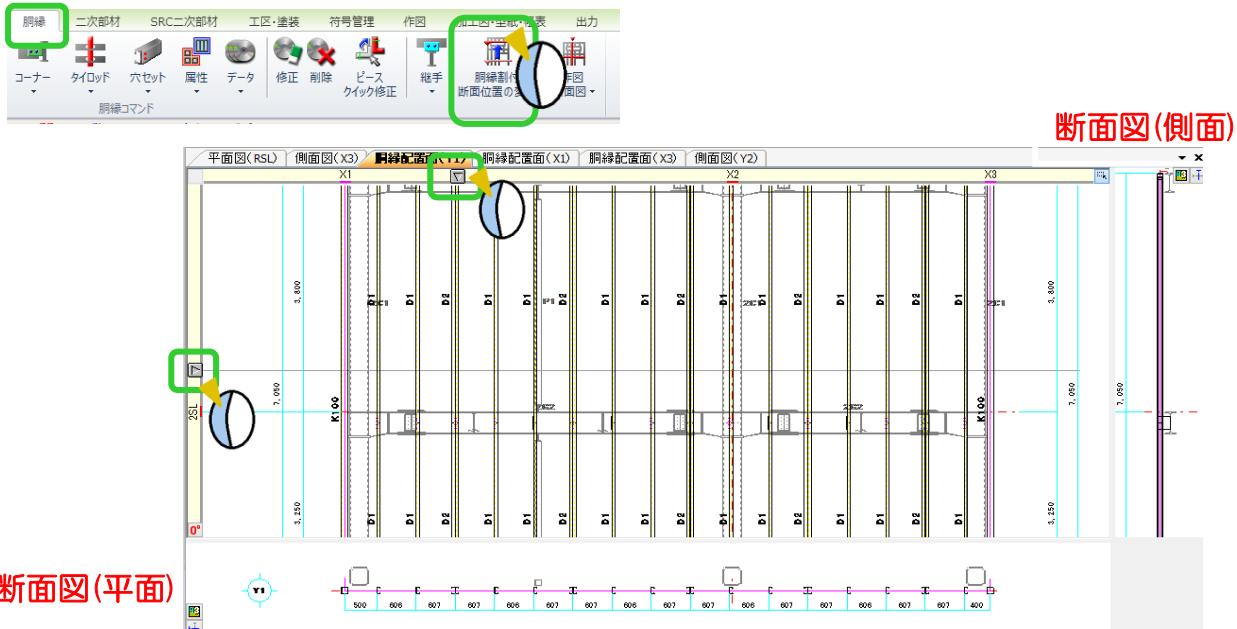
? ? 脊縁割付図に断面図と一緒に作図したい！

脊縁断面位置の変更と追加で作図できます。

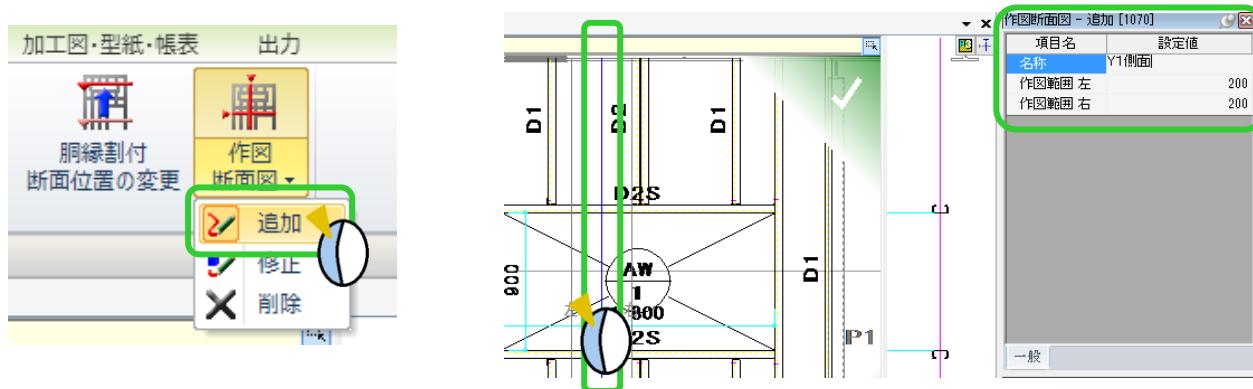
【脊縁】 - 【脊縁断面位置の変更】をクリックし、作図する断面位置を指定します。

配置画面の上と左に表示されているスライドバーをドラッグさせて、作図する断面を決めてください。

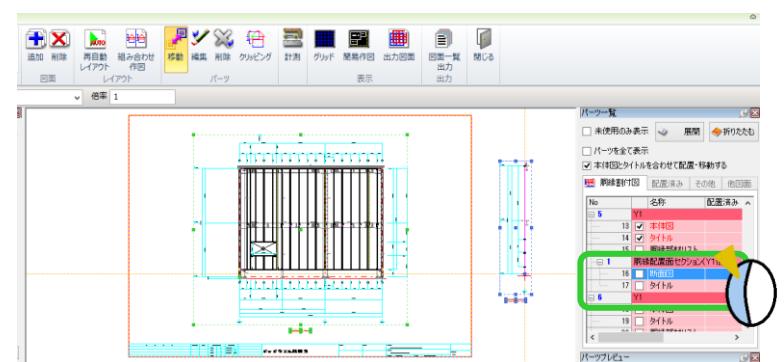
作図断面は左・下側にある画面で確認ができます。



【作図断面図】 - 【追加】を選択します。【断面位置の変更】で決めた断面位置のラインをクリックして、作図断面の名称・作図範囲を指定して四隅にある決定ボタンをクリックしてください。



【作図】 - 【脊縁割付図】より作図を行います。
レイアウトをクリックしレイアウト画面を開き、
作図した断面図は自動でレイアウトされないため
パート一覧の中から作図した断面図を
左クリックで選択し配置を行ってください。

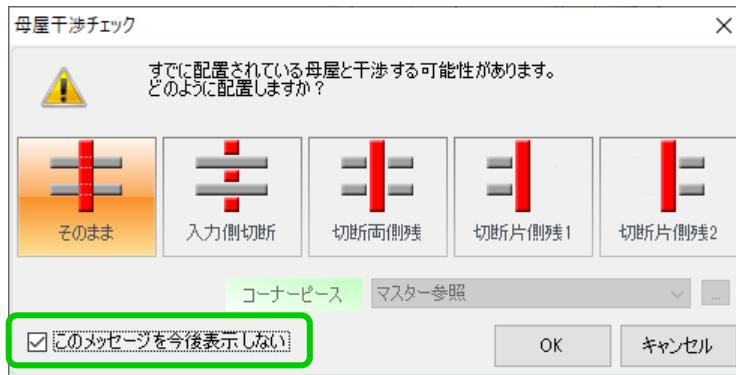


? 母屋・胴縁入力時の干渉チェックの画面が表示されなくなった！

画面左上の「ファイル」タブから設定できます。

母屋配置などを行うときに、部材同士が干渉する場合の処理方法を選択する画面です。

『このメッセージを今後表示しない』をチェックして処理を続行すると、次回より非表示になります。



【ファイル】 - 【表示】 - 【干渉チェック】をクリックし、表示のON/OFFを切り替えます。

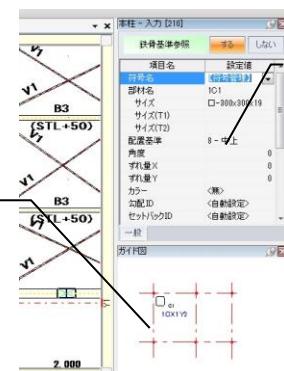


入力シート

入力シートの表示を切り替えます。

ガイド図

ガイド図の表示を切り替えます。



入力シート

ガイド図

次回起動時に表示しない (3Dビューアー)

3Dソリッドビューアー起動時に出力するデータ種類や階・工区を選択する画面の表示を切り替えます。



ON (干渉チェックを表示します)



OFF (干渉チェックを表示しません)